

平成 21 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：認知症高齢者 グループホーム つどい（ひまわりの丘棟）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370901001		
法人名	医療法人 一 秀 会		
事業所名	認知症高齢者 グループホーム つどい ひまわりの丘棟		
所在地	〒021-0002 岩手県一関市中里字石川瀬13-1		
自己評価作成日	平成 22年 01月 06日	評価結果市町村受理日	平成 22年 3月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370901001&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成22年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の意志の尊重、利用者の言動・行動の受容を目標に掲げて、地域に理解していただける事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺はさまざまなショッピングセンターや体育館などがある一方、昔からの農家も多く、のんびりした環境にある。毎月請求書と一緒に詳細な支援経過記録を家族に送付しており、家族には、ホームでの様子がよく分かると好評を得ている。地域との関係も良好で、近隣環境のアドバイスや防災面の協力のほか、以前の同僚やサークル仲間が訪ねてきたり、地域住民も参加してのサマーフェスティバルでは利用者がカラオケステージで熱唱し歓声を浴びているなど、利用者の大きな楽しみにつながっている。また2つのユニットをつなぐウッドデッキは解放感にあふれ、天気の良い日には憩いの場となっている。日々ともに暮らしながら利用者理解を深め、利用者にとっての親や子ども、友人といった大事な人たちと同様の存在に近づければとの思いを抱きながら、より良いケアに向けて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : 認知症高齢者 グループホーム つどい (ひまわりの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える場所に掲示して、職員が理念を考えながら介護している。	利用者が以前生活していた家庭の環境や暮らし方を大切にしながら、利用者にとって大切な様々な人(親、子)として、また自分の居場所としての存在に近づけるよう心の交流を深めるような理念として考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りの行事や日常の外出時、挨拶や会話をしながら地域にとけこむように心がけている。地域の方が近隣のスーパーに野菜を出荷していることもあり、出来るだけその野菜の購入を心がけている。	地域の運動会の打ち上げに参加する機会等で、住民からホームについてや認知症について話が出され、地域住民の理解が徐々に深まっている。夏祭りへの参加や日常の散歩の時に声をかけられたり、野菜をもらう等の交流がなされている。	近隣環境の安全面に関するアドバイスが得られたり、利用者の見守りについても意識してもらったりと、協力的な地域の関わりにより事業所は感謝している。今後も様々な面で関係を深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別なことは現在何も行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者より意見をいただき、今後のサービスの向上に取り組んでいる。	区長、老人クラブ会長、行政職員、利用者が参加し、利用者の状況や行事について報告し、意見交換をしている。また、参加者からは、色々な情報をもらい、サービスの向上に活かしている。	事業所ではもっと家族にも参加してもらえればとの思いがある。家族の忙しい事情に配慮しながらも、参加しやすい方法の工夫が今後望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要な連絡等は、電話で行なうことが多く、積極的とはいえない状況である。	制度上の様々な問い合わせを電話等で行っているほか、生活保護を受けている利用者のワーカーとは毎月話す機会がある。また市からの介護相談員も時々訪れ、利用者の話を聞いている。	電話でのやり取りに加えて、担当者と気軽に行き来ができるなど、顔の見えるコミュニケーションを増やせるような関わり方も今後期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行ない、理解を深めると共に、知識の向上に努めている。現在身体拘束は行っていない。	研修会を行い、身体拘束は絶対にしてはいけないことを全員が認識している。玄関は日中鍵をかけず、利用者の外出にはブザーで対応し、職員がさりげなく付き添うなどケアしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行ない、理解を深めると共に、知識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行ない、理解を深めると共に、知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、起こりうるリスク等も説明し、ご理解をいただいた上で入居していただいている。解約時にも、十分説明をしたうえで納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議が、もっとも意見を表わす事が出来る場と考えているが、ご家族の不参加も多く、意見を運営に反映させているとは言えない。	利用者の状況を詳細に伝えることで家族からは安心感が得られている。家族からは料金面での要望などはあるが、地域との関わりの中でどう運営していくかという点での意見は薄い状況にある。	利用者側としての意見と共に、家族の協働意識は事業所運営に大きな役割をもつ。細やかな連絡により家族との結びつきは確立されているため、伝える内容の工夫等で、事業所や地域とパートナーとして関わる意識が促進することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中で、意見や要望をきくように心がけているが、不満等においては把握しきれていない可能性もある。	会議では、声かけの仕方や、ケアに関わる工夫等職員から意見や要望を聞く機会を設けているが、運営に関する提案等の意見の把握はこれからの課題としている。	職員個々が「やってみたい」と思ったことを意見として出し、まずはやってみるといった主体性を促す環境作りを今後期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得後は、本人の意向を重視し、可能な限りその資格をいかせるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に必要と判断した研修等には積極的に参加させている。法人内、事業所内でも研修や勉強会を実施しているほか、外部研修に参加した職員から、伝達講習を行なうことにより、知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム定例会他、地域で催される活動があれば、参加をすすめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	調査にて、生活状態・症状等を把握するよう努めている。ご本人からの聞き取りが難しい場合は、ご家族から伺うこともある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問や電話にて相談があった際には、出来るだけ時間をかけてゆっくりと話をきくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話を傾聴し、場合によっては他の事業所や手続きについて紹介・説明することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす中で、調理をはじめ、その他の場面でも利用者に教えていただく場面は多い。また、声がけにも配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状況報告するとともに、必要に応じてケア方法を一緒に考えていただくこともある。また、電話を利用して、声をきく事で安心が得られるよう、また、関係が続くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの企画や、誕生会の時などは、本人のなじみの場所に行き、思い出を振り返る場面を作っている。なじみの方が面会された際は、再来所いただけるように働きかけている。	同級生や同じ職場の仲間、サークルの仲間が面会に訪れた際には、再度来てくれるようお願いしたり、入所する前に住んでいた自宅周辺へのドライブに出かけたりと馴染みの関係の継続に努めている。	利用者を訪ねて様々な人が訪問できる環境づくりや関係支援は、利用者の喜びにつながっており、その意義は大きい。今後も訪れる人々を大事にしていてもらいたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルを2つに分け、利用者同士の関係が上手いくように配慮している。表情や言動等から、関係や気分を察し、必要に応じて、職員が潤滑油になるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族とお会いした際は、ご本人の様子を伺う等、継続的な関係が出来るように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で表情や言動等から、気持ちを察して把握するように努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族から情報を得ると共に、センター方式の心身の情報(私の姿と気持ちシート)を用いて、ケアに反映させている。	センター方式を取り入れたことで、本人の意向の把握がしやすくなった。同時に個性も見えやすくなったし、家族からの情報も得やすくなった。利用者の日々の行動や表情からも思いや意向の把握をするように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式に取り組み、ご家族にも一部記入をお願いしている。また、ご本人やご家族にも話を伺い、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活動作を観察するとともに、水分量・食事量・排泄・バイタルチェック表を作成し、現状把握に努めている。また、センター方式も活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意見を聴きながら、介護計画を作成している。また、毎月の会議にて職員全員で意見を出しながら介護計画に反映させている。	センター方式で「できる事」「できない事」の把握や本人の意見である「仕事や趣味をもっとやりたい。」家族からは「健康であれば」等出された意見と、職員全員の意見をあわせて計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に日々の様子やケアの実践結果を記録し、アセスメント兼モニタリングシートやケアチェック表を作成し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診を職員対応にて行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署立会いの避難訓練を行ない、火災や地震対策について助言をいただいている。また、災害用伝言ダイヤルを活用したり、セコムにも協力をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に、入居後も通院している。本人・ご家族と話し合いながら、職員対応で受診し、様子を伝えている。	かかりつけ医の受診となっている。法人の意向でもあり、利用者の状態を適切に伝えられることから、職員が同行している。家族が同行する場合は、家族にホームでの様子を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する同法人事業所の看護師と連携をとりながら、健康状態に応じて、支援や助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず職員が様子を確認に伺っており、病院関係者やご家族と連絡を取りながら、不安なく退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	具体的な取り組みについては現状では特に実施できてない。	これまで検討対象となるような利用者もなく、家族や本人からも具体的な要望は出されることはなかった。事業所単独では対応が困難なため、同法人で運営する他サービス(老人保健施設、有料ホーム等)との連携も視野に入れて検討していく予定である。	利用者の重度化は長期的な視野では想定されるため、本人の意向や家族と話し合う機会を徐々に得ていく必要はあると考えられる。そこでの要望に応じて、可能な対応を先々で検討していくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救命講習を企画しており、ほとんどの職員が受講できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の確認とともに、避難訓練を実施している。推進会議では、地域住民の方々へ協力をお願いしている。	敷地内の同法人の事業所と共同で、年2回避難訓練を実施している。地域住民の多数の参加を得て、誘導や消火、バケツリレーも経験することができた。地域の消防団の参加もあり、協力体制はできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々に合わせながら、目立たず、さりげない声がけをするよう心がけている。	利用者がティッシュペーパーを引き寄せるなどのサインを見逃さず、さりげない声掛けでトイレ誘導をしたり、入浴は同性介助を心がけるなど、利用者のプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方は、表情や言葉や仕草から察し、ジェスチャー等を用いながら自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の天候や状況・希望に応じて買い物やウッドデッキに出たり、畑で野菜を収穫したりすることがある。自室でおもいおもいに過ごされている方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、男性利用者には髭剃り、女性利用者には整髪を心がけ、必要に応じて声がけや介助を行なっている。散髪は、訪問美容室を利用しているが、それ以外にも希望の理髪店を利用している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや季節に応じた食材をメニューに取り入れるよう心がけている。下準備や片づけ等も、利用者は積極的に手伝ってくださる。	秋は駐車場の芋煮会、冬は鍋や行事食、クリスマスには手作りのケーキなど季節感のある食事のメニューになっている。食事の下ごしらえや後片付けなど利用者が手伝い、食事が楽しくなるような工夫が見られる。	近隣住民が栽培した野菜を優先的に買い、「～さんの野菜です」と伝えながら食事をしている。食事の中で近所の親しみを感じることができる配慮であり、今後も継続してもらいたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや食べる量、栄養バランスを考えながら調理をしている。定時の水分補給はもとより、一人ひとりの状態を察しながら水分補給も補っている。法人の栄養士が定期的に献立をチェックし、助言もいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの歯磨きの声がけや支援を行なっている。義歯使用者には、義歯洗浄剤を活用し、清潔を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、個々の排泄サインを察し、さりげなくトイレに案内している。尿意のあいまいな方には、時間を見計らって案内することにより、トイレで排泄が出来るように支援している。	誘導時間を短くしたり、利用者の行動や態度からトイレ誘導を行うなど、トイレでの排泄ができるように配慮し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んでいただいたり、繊維を多く含む食物の摂取、体操等の適度な運動を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯や頻度が大体決まっているが、希望があれば入浴が出来るよう、臨機応変に対応している。入浴を拒む方には、声かけや対応を工夫して、個々に合わせた対応を心がけている。	入浴は毎日、夕方4時から6時の間で対応している。一週間に2～3回の入浴希望者が多い。又、2番風呂希望者や日中入りたい希望に対応するなど個別の要望に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後はなるべく休息していただけるよう声かけを行ったり、個々が自由な時間に休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を保管し、職員が内容や副作用についても把握するように努めている。服薬の変更があったときには、薬局と連携をとり、副作用の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や得意をいかして、読み書きや塗り絵、編み物等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良いときは散歩へ出かけたり、外で体操を行ったりと希望に沿って気分転換を図っている。遠くの外出も事前に計画を立てて出かけている。	利用者の希望にそって、自宅周辺や厳美溪へのドライブに出かけたり、近隣のイオンショッピングセンターへ買い物に出かける機会を設けている。天気の良い日にはホームの周りの散歩や、散歩の途中で体操をしたりと、なるべく出かける支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方については、本人での所持や使用をしている。それ以外の方については、必要に応じて事務所にて預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際には、電話をかける支援を行っている。御家族様あてに年賀状も毎年書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を避ける為、家具の配置換えはほとんど行っていない。毎月手作りの絵を飾ったり、窓からは干し柿が見えるようにし、季節を感じられるような工夫をしている。	居間には、フラットの畳敷きがありコタツ、ソファ、テレビ、観葉植物などがある。居間から出入りのできるウッドデッキで天気の良い日にはお茶を飲んだり、歌を歌ったりしている。キッチンが居間と対面に作られ、調理の音や臭いを感じることができるなど居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由にくつろげるテーブルの配置や、畳のスペースを設け、冬にはコタツでのんびりくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく、動きやすい居室作りを行っている。使い慣れたものを自由に使ってもらえるよう配慮している。	居室には、テーブル・イス、趣味の本、テレビ、ラジカセ、アルバムなど利用者の馴染みのものがあり、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内には段差がなく、歩行が安全に出来るよう、手すりを設けている。トイレや居室のドアには目印を置き、安全で自立した生活が送れるよう配慮している。		